

グループ名	ユニット名等	科目名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 日本を知る	日本の伝統文化	渡邊淳子	1年次	秋

授業のキーワード	幽玄、花、わび
授業の概要・目的	伝統芸術の中から今年度は日本の典型的価値観や美意識を創り上げた能と茶の湯を取り上げ、能の特色、大成者世阿弥の目指したもの、茶の湯の特色、大成者千利休の目差したものを検討し、そこに通底する日本文化の特色を学びます。
履修のアドバイス・ 前提科目等	日本人でありながら、日本文化の特色はと聞かれると、なかなか適切な説明ができないという人は多いと思います。外国の人に、日本文化の特色を説明できる知識の習得を前提に講義します。美術を並行して履修することが望ましい。

授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	導入	半年間の授業内容を概観し、授業の目的や受講上の留意点を説明します。	第9講	茶の湯の成立	わび茶がどのようにして成立したのか、その成立過程を概観します。
第2講	能とは	A V資料を用いて能を鑑賞し、能とはどのような芸能か、その特色を学びます。	第10講	わび茶の特色	わび茶の特色
第3講	能の成立	能という芸能がどのように生成されてきたのか学びます。	第11講	千利休のわび茶 その1	千利休の目差したわび茶を『南方録』や『山上宗二記』などの資料を手掛かりに見てゆきます。
第4講	能という芸能の特色 その1	能舞台や能の構成の特色を検討し、能の特色について学びます。	第12講	千利休のわび茶 その2	第11講の続き
第5講	能という芸能の特色 その2	能の所作、面（おもて）の特色を検討し、能の特色について学びます。	第13講	わび茶の目差したもの	わび、一期一会等、わび茶の精神性について検討します。
第6講	能の目差したもの その1	世阿弥の能芸論を手掛かりに能を通して追求された芸術意識について検討します。	第14講	まとめ	能、茶の湯を通して見られる日本人の精神性の特色や伝統文化の特色についてまとめます。
第7講	能の目差したもの その2	第6講の続き	第15講	定期試験	
第8講	茶の湯とは	A V資料を用いて茶の湯とはいかなるものか見てゆきます。	評価方法		出席 10% 受講態度 10% テスト 80%
備考 (関連する資格・試験等)		資格試験に直結する授業ではありませんが、この授業を通して、お茶や生け花に興味を持ち、茶道や華道を習得し、それぞれの方面の教授になるという道を目指すことも可能です。日本人が大切に伝承してきた能や茶の湯などの文化に兎も角も目を向けて見てください。興味を抱き、自分もやってみたいと思っていただければ幸いです。 授業レベルは日本文化論の基礎。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
特に使用せず、資料を配布します。			○増田正造著『能の表現 その逆説の美学』（中公新書） ○桑田忠親著『茶道の歴史』（講談社学術文庫） ○筒井紘一著『茶の湯事始』（講談社学術文庫）		